

郡山の農産物をPRします!



あさか舞をPRする原市長

原発事故以来、市では関係機関と協力して全国であさか舞など郡山産農産物をPRしてきました。今後も、新米や冬野菜のPRに全力で取り組みます。

農政課 ☎924-2201

期日	イベント名	会場
11/4(金)~6(日)	かわさき市民祭り	川崎球場 第1駐車場内
11/6(日)	ウィンターフェスティバル	なかもち夢通り
11/12(土)・13(日)	奈良市市民フェスティバル	奈良100年会館
11/23(金)~27(日)	がんばろう郡山! 観光物産フェア	ふくしま市場 (東京都・イトーヨーカドー・葛西店内)

生産者の声、聞いてみませんか~直売所情報



生産者と会話ができるのが直売所の魅力。新鮮野菜のレシピを教えてもらえるかもしれません。

◀新鮮野菜をそろえて待っています!

期日	イベント名	会場	問い合わせ
毎週日曜日 6:00~7:30	おはよう市場	総合体育館 西側駐車場	宮農推進課 ☎924-3761
毎週火曜日 15:00~16:00	田村夕焼け市	東部体育館駐車場	田村行政センター ☎955-3101
11/4(金)・18(日) 16:00~18:00	西田町夕焼け市	小和滝公園前 コンビ二駐車場	西田行政センター ☎972-2111
毎週日曜日 6:30~	東部ニュータウン朝市	東部地域子育て 支援センター駐車場	中田行政センター ☎973-2111
毎日 10:00~18:00	—	中田町情報発信基地 (農産物直売所)	同直売所 ☎973-2745

私も応援してます!

郡山市フロンティア大使
アイビー(株式会社ハチレストラン) 総料理長
鈴木 真雄さん



時間をかけて誠実に

大好きなふるさと郡山のため、何かできないかと、4月にアイビーのみんなと郡山で炊き出しをしました。取引先の協力もあって、自慢のカレーを食べていただきました。郡山の野菜、美味しいものがたくさんありますが、これからの季節は、阿久津曲がりねぎが美味しいですね。煮込んでも美味しいですが、焼いてドレッシングをかけて食べると甘みが際立って最高ですよ。今、郡山の農業は大変だと思いますが、農産物の情報をしっかりと伝えて、時間をかけて誠実に対応することが必要だと思います。私も東京でPRしますので、一緒にがんばりましょう!



4月に行われた鈴木大使の身も心もあつたまる炊き出し
大きな力をもらいました

広がる応援の輪

風評被害という暗い話題が多い中、明るい光も。郡山の農産物を応援する輪が広がっています。

東京で「あさか舞」を販売し続けます



にちさとまさみち
(練丸里商店 日里 正路さん
東京都板橋区)



主力商品のあさか舞はいつも
お店の一等席に陳列されています

「家でもあさか舞を食べていますよ。美味しいからお客様にも真っ先に勧めます」と食料品スーパー丸里商店の店員さん。あさか舞の販売を始めたのは平成20年からです。日里さんが問屋の勧めで試食したところ、価格以上の美味しさを感じたそうです。「これはいける」と店頭と並べたところ、新潟産米を抜いて、あさか舞が売り上げトップになりました。「お客様は美味しいと思ったお米を買い続けます。」



毎日売れ行き好調!
あさか舞の手作り弁当

「私には、これまでどおり米や野菜を販売することしか応援できませんから」とさりげない一言には、日里さんの心に秘められた福島が生産者を想う気持ちが込められていました。

「首都圏から福島の農産物が消えたら大変だ」と一時は不安に思ったことも。でも、以前と変わりなくあさか舞や県産野菜を販売できるようになり「出荷されているものは公的機関などの検査により、安全が確認されていると考えて仕入れていきます。放射性物質の検査もしっかりやっているのだから、新米だって同じ」と、あさか舞の新米も販売すること。

逢瀬町への「親孝行」は続く



文京学院大学の皆さん
(埼玉県ふじみ野市)

「お帰り! 子供もが帰省したかのように、逢瀬の皆さんはいつも温かく迎えてくれて古里のようですよ。平成18年から、逢瀬町で民泊をしながら農業体験を行なっている文京学院大学の皆さん。その「古里逢瀬町を原発事故が襲いました。学生たちは、心配でいてもたってもいられず、5月に逢瀬町へ。不安な日々を送る逢瀬町の人たちを前にして、「逢瀬の野菜を代行販売したい」と打ち明けたのです。逢瀬いなか体験交流協議会の中村和夫さんは「子どもたちに会えて本当に元気づけられました。その上、逢瀬の野菜を売ってもらえ



5月の訪問ではネギの苗植えを体験
左から2番目が逢瀬町の中村さん

るなんて」と感激したそうです。学校に戻るとすぐに実行に移し、学校近くの商店街にチャレンジショップを開店。毎回ほぼ完売するほどの人気です。

その活動は地元の商工会の皆さんをも動かします。11月3日に開催されるふじみ野市産業祭に、学生と商工会が一緒になって逢瀬町の野菜を販売することになったのです。「私たちの行動で、周りの人と同じ気持ちになってもらえて嬉しいです。これでまた何か新しいことができそうです。」

古里への愛情がさらに増した学生の皆さん。逢瀬町への「親孝行」は続きます。



商店街での活動が応援の輪を広げました



私たちが生きていくために必要な「食」そんな郡山の食を守ろうと必死になって放射能と戦う生産者の皆さん。生産者の皆さんを勇気づけようとして遠く離れた東京のスーパーや埼玉の学生、フロンティア大使の皆さんなどたくさんの人たちが郡山を応援しています。応援の輪が広がるように、市も食の安全情報をわかりやすくお知らせして、消費者の皆さんの不安払しょくのために全力で取り組んでいます。先人たちが一生懸命耕した大地で育てられた大切な郡山の農産物を10年後、100年後もみんなで食べられるように

